

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2024年度	開講キャンパス	開講キャンパス	都城キャンパス	都城キャンパス	開設学科	開設学科	子ども教育学科			
科目名称	環境問題演習						授業形態	演習			
科目コード	750063	単位数	2単位	配当学年	3	実務経験教員		アクティブラーニング	○		
担当教員名	遠藤 晃							ICT活用	○		
授業概要	<p>環境問題は広く深く複雑で、私たちの日常生活も含め、産業、経済、社会、国際関係、法制度・政策などと直接・間接に相互関連しあっている。このような複雑な課題を取り扱い解決へと向かうためには、環境問題に関する個別の知識ではなく、「多面的な理解」や「知識や経験を関連付けて思考する能力」が必要となる。</p> <p>関連性の学問とも言われる「生態学（エコロジー）」は、環境問題を考える基盤となる「知識」を与えるだけでなく、個別の知識を「関連付ける思考法（エコロジー的思考）」を習得する機会を我々に与え、教員志望の学生にとっては、新・学習指導要領が求める「汎用的な知識・技能」「教科横断的な学び」の指導力向上にも寄与することが考えられる。</p> <p>本講義は、「ESD・環境教育論」の実践編であり、主な地球環境問題の主要テーマの中から、生物多様性と気候変動、ゴミ問題や水の問題などについて、野外調査（フィールドワーク）によって自分自身で調査・研究することで、環境問題について深く理解する。その上で、自然共生社会、循環型社会、低炭素社会の実現に向けて、様々な取り組んでいる行政による環境施策について理解し、環境問題に対する具体的行動について考える。</p>										
関連する科目	エコロジー入門、ESD・環境教育論、ESD・環境教育演習										
授業の進め方と方法	<p>本講義では、カモシカを保護する立場（文化財行政、研究者）、シカの駆除に取り組む立場（鳥獣行政、狩猟者）、森林を守る立場（林野行政、林業者）の方々をゲストティーチャーとし、それぞれの考えや取り組みをレクチャーしていただくことで多様な視点（それぞれの立場）があることを知り、そのうえで、目的（今回はカモシカの保全）のために、「教育学の視点」から、よりよい解決方法を考案し、行動につなげていく。このプロセスを通して、教員志望の学生の汎用性のある資質・能力を向上させ、教育者としてのスキルアップをはかる。</p>										
授業計画【第1回】	<p>1日目：ニホンカモシカとニホンジカ ①：オリエンテーション：遠藤晃/ 講義の目的、到達目標、内容、課題と評価</p>										
授業計画【第2回】	<p>②：ニホンカモシカの生息状況：専門家・綾町教委文化財担当/ 「生態、分布南限、推定個体数激減、分布移動、シカとの競合、錯誤捕獲」 ・カモシカの専門家とカモシカを所管する教育委員会の文化財担当者よりレクチャーを受け、カモシカの現状と行政の施策について理解する。</p>										
授業計画【第3回】	<p>③：綾町について：専門家、綾町BR推進室/ 綾町の紹介（自然、歴史、文化） ・綾町がユネスコエコパークに認定されるまでの歩みについて、綾エコパーク推進室の専門家よりレクチャーを受け、綾町が持続可能な社会のモデルとなる要素について理解する。</p>										
授業計画【第4回】	<p>④：ニホンカモシカとニホンジカの生態：遠藤晃/ 分布、社会構造、採食生態、個体群動態 ・両種の動物生態学的な特徴を理解し、問題解決の基礎知識を習得する。</p>										
授業計画【第5回】	<p>⑤：ディスカッションとまとめ ・1日目のレクチャーを終えて、カモシカの保護に関する課題、解決策、アイデアなどを考え、自由にディスカッションする。</p>										
授業計画【第6回】	<p>2日目：生物多様性／森林とニホンジカ ①：綾BRについて：綾町BR推進室/ 綾町の取り組み、綾プロとBR、エコパークセンターの取り組み ・1日目のレクチャーに続き、綾ユネスコエコパークの認定から現在のエコパークの取り組みについて、BR推進室の担当者からレクチャーを受けます。</p>										
授業計画【第7回】	<p>②：生物多様性とは：遠藤晃・綾町BR推進室 / 生物多様性、関連法律、国家戦略と地域戦略、教育と生物多様性 ・生物多様性について、国家戦略、地域戦略についてBR推進室の担当者からレクチャーを受けます。</p>										
授業計画【第8回】	<p>③：綾町の森林：森林管理署、綾町農林振興課、森林組合 / 自然林、林業の現在・過去・未来、綾プロ、食害と防除、森林と法律 ・綾町の森林行政について農林振興課担当者より、国有林の役割と森林施策、鳥獣害対策について宮崎森林管理署・綾森林事務所の担当者から学びます。</p>										
授業計画【第9回】	<p>④：鳥獣による農林業被害と対策：綾町農林振興課・猟友会 / 野生動物と法律、特定鳥獣管理計画、狩猟の現状と課題、対策 ・「鳥獣による農林業被害とその対策」について、農林振興課の担当者から綾町の鳥獣害被害の現状を、綾町猟友会長から狩猟の現状を学びます。</p>										
授業計画【第10回】	<p>⑤：ディスカッションとまとめ ・2日間のレクチャーを終えて、カモシカの保護に関する課題、解決策、アイデアなどを考え、自由にディスカッションする。</p>										

授業計画【第11回】	3日目：森林とニホンジカ、ニホンカモシカの共生に向けて ①②：ニホンジカが生物多様性に与える影響（フィールドワーク）防鹿フェンス内外の植物：綾町BR推進室 田一ワード「生物間相互作用、多様性、鳥獣害とその対策」/ 綾プロエリア国有林 ・シカの採食圧とフェンスの効果について、生物多様性という観点から現地調査を行う。
授業計画【第12回】	①②：ニホンジカが生物多様性に与える影響（フィールドワーク）防鹿フェンス内外の植物：綾町BR推進室 田一ワード「生物間相互作用、多様性、鳥獣害とその対策」/ 綾プロエリア国有林 ・シカの採食圧とフェンスの効果について、生物多様性という観点から現地調査を行う。
授業計画【第13回】	③：フィールドワーク（データ整理と解析） ・調査で収集したデータから生物多様性を数値化し比較する。
授業計画【第14回】	④：総合的なまとめと議論：プレゼン資料作成/ 人間と森林、ニホンジカ、カモシカの持続的な共生 ・カモシカの保護のための小学校の総合的学習のプログラムを受講者が対話を通して議論し、組み立てる。
授業計画【第15回】	⑤：プレゼンテーション：共生のためのアクションプラン（教育的な視点より） ・カモシカの保護のための小学校の総合的学習のプログラムをプレゼンテーションする。
授業の到達目標	地球環境問題について、単に環境問題に関する個別の知識を習得するのではなく、「多面的な理解」や「知識や経験を関連付けて思考する能力」をもとに、複雑な課題を取り扱い解決へと向かうことができるようになる。そのために、受講者自身がフィールドワークや活動等を通して、地域の環境問題に関する情報を多面的に収集し、感連付けて整理した上で、具体的な行動について考えられるようになることを目標とする。
学位授与の方針（DP）との関連	1.知識・理解を応用し活用する能力-(2)/2.汎用的技能を応用し活用する能力-(1)/2.汎用的技能を応用し活用する能力-(2)/3.人間力、社会性、国際性の涵養-(2)/3.人間力、社会性、国際性の涵養-(3)/3.人間力、社会性、国際性の涵養-(4)/3.人間力、社会性、国際性の涵養-(5)
授業時間外学習【予習】	毎回の講義について、講義内容を振り返り、内容に関連して自分が考えたことをまとめ、文章として表現するレポートを課す（1時間程度/回）。また、事前準備として、毎回のテーマに関連する予習を課す（1時間程度/回）。不明な点は、担当教員に随時相談すること。
授業時間外学習【復習】	毎回の講義について、講義内容を振り返り、内容に関連して自分が考えたことをまとめ、文章として表現するレポートを課す（1時間程度/回）。また、事前準備として、毎回のテーマに関連する予習を課す（1時間程度/回）。不明な点は、担当教員に随時相談すること。
課題に対するフィードバック	課題・レポートについては、随時解説する。
評価方法・基準	演習への取り組みを、レポート(60%)、プレゼンテーション(10%)、意見発表(10%)、プログラムの作成などグループ活動への主体的・協力的・創造的参画(20%)の観点から、総合的に評価する(100%)。評価基準については、講義内容の理解を最低限のレベルとし、理解に基づく活用、さらに応用といった、知識を基にして様々なことと関連づけて思考・判断したことが表現できているかどうかを評価する。
テキスト	テキストは使用せず、適宜資料を配布する。
参考書	・手島利夫著「学校発・ESDの学び」教育出版 ・遠藤晃「総合的な学習の時間とESD -科学的思考で未来を切り開く-」（降旗信一編著：持続可能な地域と学校のための学習社会文化論）学文社
備考	・講義とフィールドワーク（野外調査）で構成され、夏季集中講義で3日間実施する。 ・講義は綾町エコパークセンターと学生をzoomでつなぎオンラインで実施し、フィールドワークは綾町の照葉樹林内で実施する。 ・フィールドワークに適した服装・靴などが必要である。 ・安全管理上、受講者の人数を制限することがある。 ・天候など状況により日程や講義内容が入れ替わる事、変更になることがある。 ・現地への移動手段等はあらかじめ指示する（基本的には現地集合・現地解散とする） ○夏季集中講義として8月後半の実施を予定しているが、各種実習と日程が重なることがないように調整して日時を決定する。